

月 旬	9	10	11	12	1	2	3	4			5			6			7			8			9		
								上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
生 育 ス テ ー ジ	播種期 田植え 分けつ期 最高分けつ期 幼穂形成期 出穂期 登熟期 成熟期																								
管 理 作 業	● 稲わらの 鋤き込み	● 堆肥の 施用	● 深 耕		● 耕うん	● 塩水選・ 種子消毒	● 播種（箱 施薬剤混和）	● 畦畔作り		● 基肥施用	● 代かき	● 箱施薬剤 散布	● 田植え（ 基肥施用）	● 除草剤散 布		● 中耕・草 取り	● 畦畔管理		● 穂肥施用	● 畦畔管理	● 斑点米カ メムシ類 いもち病 防除	● ヒエ抜き	● 畦畔管理	● 収穫・乾 燥・調製	● 稲わらの 鋤き込み
水 管 理	【深 水】 【浅 水】 【間断かんがい】 【湛 水 管 理】 【中 干 し】 【落 水】																								
栽 培 の ポ イ ン ト	1. 土づくり ・有機物の補給として、稲わらの鋤き込みを行う。 ・堆肥等の施用を積極的に行い、地力維持に努める。 2. 作土層の拡大 ・深さ15cmを目標とした耕耘を行い、根域を拡大する。 3. 基 肥 ・有機アグレット673号を40kg施用する。 （砂質土は2～3割増肥、粘質土は1～2割減肥する） ・施用時期は、肥料の分解を考慮し田植前10日を目安に施用する。 ・初期生育（分けつ）の確保が難しい場合は、根付細粒化成を施用する。（但し、10kg以内を目安） ・基肥一発肥料の場合は「マイルドコート200号」を40～50kg施用する。 4. 穂 肥 ・有機追肥530特号を20kg「出穂前20日（幼穂長1cm）」施用する。（根付化成の施用前提の場合） ・但し、根付化成（を施用していなければ、有機追肥530特号は、追肥として最大35kgまで施用が可能。 （化学チッソ量4.5kg以下に抑えることがポイント） ・施用遅れは、粗タンパク質含有率を上げ、食味に影響をおよぼすので注意する。 5. 育 苗 ・種子消毒は、微生物農薬エコホープDJの200倍を24時間浸漬で行う。（陰干しはしない!） ・播種量は、催芽粃で120～150g／箱の薄播きとする。 ・ハウス内の温度管理とかん水量に注意し、健苗育成に努める。特に30℃以上の高温に注意する。 6. 田植え ・育苗日数は20～25日とし、2～2.5葉期で移植する。（徒長苗に注意!） ・1株当たり3～5本、栽植密度は㎡当り18.5株とし密植に注意する。（坪60株植え） 7. 雑草防除（3～4成分） ・秋冬期の耕うんを行い、雑草の発生量の抑制に努める。 ・生育中の畦畔管理は、草刈り機又は、バスタ液剤(2回迄)やラウンドアップマックスロードを散布する。（3回迄） ・除草剤散布は、一発処理剤のサラブレットKAIフロアブル（またはジャンボ、粒剤）を田植後30日迄に散布する。（散布遅れに注意） ・藻類が発生した場合は、モグトン粒剤を散布する。但し、散布回数は1回迄とする。 ・雑草の発生が多い場合は、手取り又は中耕を行う。 8. 病虫害防除（2～3成分） ・畦畔及び農道などの雑草は、病虫害の発生に影響するので、草刈りを行い水田周辺の環境保全に努める。 ・初期害虫防除については、抵抗性イネドロオイムシを考慮し、プリンス粒剤を箱当り50g散布する。 （または、播種前に床土に箱当り50g混和する。） ・本田後期の病虫害である斑点米カメムシ類・いもち病については、発生量に注意し適期に散布する。 ・空散防除：アミスタートレボンSE（個人防除でも使用可） *個人防除の場合：殺虫剤は、トレボン粉剤DL ：殺菌剤は、アミスターエイト 9. 水管理 ・田植え初期は深水、活着後は浅水で管理し分けつを促進する。 ・有効茎数確保後（1株当たり18本前後）、中干しに入り無効茎数と下位節間の伸長を抑制する。 ・カドミウムの吸収抑制のため、出穂3週間前から出穂2週間後まで湛水管理とする。 ・落水時期は、出穂後25日以降とする。 10. 収穫・乾燥・調製 ・収穫は、帯緑色もみ歩合15%を目安に適期に行う。 ・乾燥は、水分14.5～15%とし、過乾燥に注意する。 ・調整は、グレーダーの網目は1.8mm以上で選別する。																								

※使用量は、10a当たり。

※●有機アグレット673号(6－7－3)有機態チッソ6% ●有機追肥530特号(15－3－10)有機態チッソ3.2% ●根付化成(細粒)(13－13－13)有機態チッソ0%
●マイルドコート200号(12－10－10)有機態チッソ6%